



早いもので、もう10月。平成22年度も半分が経過し、心地よい秋風が吹く季節となりました。(当原稿は、8月の暑い最中に書いておりますので、本当にそうなっているか実感がありません)

原稿執筆の時点で今年を振り返ってみますと、「猛暑の夏」という印象は、私だけでなく皆さんも同じかと思えます。

思い出すだけで暑くなる感がありますが、そのことについては後述します。



他には、豪雨、海外旅行中に電車、バスの事故への遭遇、ヘリコプター、小型機の墜落、高齢者の所在不明、大相撲界の野球賭博事件等が思い出されます。

豪雨といえば、10年前の東海豪雨、2年前の岡崎市等の被害を思い出しますが、今年は、集中豪雨による道路冠水で道路上の車が流され死亡事故が発生、海外においても、インド、パキスタンの大洪水、中国の土石流災害等により多数の犠牲者を

出すなど、悲惨な大規模災害がありました。

旅行中の事故への遭遇では、旅行者自身事故を防ぎようがなく、そんな中、多くの死傷者が出たことは、ご遺族の方、ご家族の方は、言いようのない気持ちと怒りでいっぱいだと思います。

また、航空機の事故も短期間に相次ぐという事態がありました。

大相撲事件では、テレビ中継始まって以来、初めて「テレビ放送中止」ということとなり、それも地元名古屋場所の放送中止、また、郷土出身力士が関与していたということも残念でなりません。

私の田舎の両親も「高見盛」が観られないといって相当残念がっていました。大相撲中継といえば、

私が小学生の頃には、NHKだけでなく、東海CBCだったかは忘れませんが、民放での放送もあったことを、この事件を機会に懐かしく思い出しました。

高齢者の所在不明については、あるテレビ番組で、年金・保険は厚生労働省、住民基本台帳は総務省、戸籍管理は法務省の縦割り行政も原因のひとつではないかとのコメントがあり、頭の痛い思いをしました。

「猛暑の夏」…暑かったのは日本だけではなく、ロシア、ポルトガル、スペイン等では高気温による森林火災の発生、ロシアは、森林火災に加え、泥炭層の火災が発生し、大気汚染という深刻な状況となりました。また、北極海の氷が小さくなつたとの報道があったかと思うと、同じ時期に南米では大雪が降つたとの報道もありました。

新聞、ニュース等では、連日「猛暑日・熱中症」

の報道がされ、8月初旬の夕刊紙面では、「熱中症搬送 愛知が最多」とあり、5月末からの二か月間で熱中症の症状により病院に搬送された人は二万一千三十二人に上り、九十八人が搬送直後に死亡、都道府県別で搬送者が最も多かったのは、愛知県の二千三十二人で、以下、東京都、埼玉県、大阪府、神奈川県と続いたとの記事でした。熱中症の症状で病院を受診した名古屋北署管内の状況は、8月中旬に把握(請求書受理)した人数は二十九人で、発症月別では6月二人、7月二十七人、発症場所別では屋外で作業中十七人、屋内で作業中十二人でした。

労働に従事する方のみならず、「熱中症予防」に十分心がけていただきますようお願いいたします。

併せて、「腰痛防止」もお願いします。